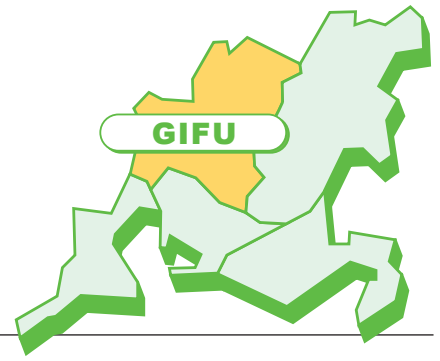


中部 だより



中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。

金融業界初！電子地域通貨「さるぼぼコイン」

限られた地域やコミュニティの中で使える地域通貨に、いま電子化の動きが加速している。これまでの地域通貨は、初期投資（偽造対策、印刷や保管）の負担、いつも持ち歩いてくれるとは限らないこと、使用できる店が限られることなどが欠点とされているが、フィンテック^{※1}技術の導入により優れたセキュリティを担保しつつ、最先端の金融サービスを提供するツールとして急速に注目されている。昨年12月、ついに金融業界初の電子地域通貨「さるぼぼコイン」が、中部圏の飛騨信用組合（岐阜県高山市）において商業化されるとともに、千葉県、愛媛県や長崎県内などでも実証試験が進んでいる。

※1 フィンテック：IoTやAIなどの情報技術を利用した新しい金融サービス、Finance（金融）とTechnology（技術）をかけた造語

1. 電子地域通貨と仮想通貨との違い

電子地域通貨とビットコインのようなブロックチェーン^{※2}技術を用いた仮想通貨の主な異なる点は、管理体制、交換性、地域性の3点である。①電子地域通貨は、法的には商品券やプリペイドカードのような電子マネーの一つであり、発行元や運営者が存在している（中央管理型）。②仮想通貨とは異なり交換所での取引はできず、基本的に購入後の換金はできない。③利用エリアが限定されており、地域密着性が高いことが特徴である。

※2 ブロックチェーン：分散型台帳技術の一つで、分散型のコンピューターネットワークを利用して、中央管理型データベースを用いずに信憑性のある合意に到達する方法を可能にする技術のこと。この合意とは、分散しているデータベースの整合性を図ることを意味している。ブロックチェーン技術では、個々の取引を直接データベースに書き込むのではなく、複数の取引をまとめてブロックにし、ブロックごとに分散型データベースに整合的にチェーンのように記録、更新していくため、このように呼ばれている。

2. 「さるぼぼコイン」の誕生

「さるぼぼコイン」によって、二つの地域課題を解決することを目指している。まず、地域の経済や消費活動の活性化のためには、お金が地域で循環することが有効ではあるが、域内にお金を留まらせる仕掛けがなく課題となっていた。また、飛騨

信用組合がある高山市は、飛騨高山として世界的にも良く知られた観光地であり、昨年度も約462万人（内訪日外国人、約51万人）もの観光客が訪れている。しかし、手数料が高い等の問題で



クレジットカードを利用できる店舗が限られており、特に訪日外国人のお土産の購入やことづくり体験など、インバウンド消費の機会ロスが相当あることが明らかとなっていた。これらの課題解決を目指し、最先端技術を実装した「さるぼぼコイン」が誕生した。

3. 「さるぼぼコイン」の特徴

「さるぼぼコイン」は、iOSやAndroid OSが動き国内で通信ができるスマートフォンであれば、アプリケーションをダウンロードし設定することで利用できる。地域住民と訪日外国人という大きく異なる属性を顧客ターゲットとしているために、それぞれに対する提供価値に違いがある。地域住民に対しては、加盟店でのキャッシュレス決済、チャージ

によるポイント付与やユーザー間の送金などの価値が提供されている。さらにQRコード読取方式での決済のため、加盟店の導入コストはほぼゼロ、かつ決済手数料はクレジットカードの1/2～1/3とし、加盟店の積極的な増加を図っており、誕生から約2カ月で400店舗、チャージ人数は約2,500人(2018年2月現在)を超え、さまざまな生活シーンでの利用がみられるなど、電子地域通貨プラットフォームが形成されつつある。また、訪日外国人に対する本格導入はこれからであるが、慣れない少額現金決済からの解放、クレジットカードが利用できない店舗でのお土産の購入やこと



支払いの流れは、①アプリを起動、②支払うをタップする、③暗証番号を入力、④お店のQRコードを読み込む、⑤金額を(客側が)入力しお店が確認する、⑥店側に支払い通知メールが届く

づくり体験などの価値が提供され、充実した飛騨地域の観光に貢献することが想定される。

4. 「さるぼぼコイン」導入後の期待と課題

「さるぼぼコイン」は、地域課題を解決するために誕生した電子地域通貨であるが、その中身は最先端のフィンテック技術の一つである。したがって、より多くのシーンで利用が広がっていくことが想定される。例えば、加盟店にとっては、アプリケーションのGPS情報や顧客の属性、利用状況などがリンクされた状態であれば、それらの情報がビッグデータとしてAI解析が可能であり、それに基づいた最適なサービスを顧客に提案するなど、新しいビジネスモデルにチャレンジしやすい。一方、顧客にとっても、地域限定、かつ正確できめ細やかな価値のあるサービスを受けることができることになり、より質の良い生活に寄与するものである。

「さるぼぼコイン」は、生き残りのための認知度向上、クレジットカードや外貨からの直接チャージなどの課題があるが、今後の展開が期待される地域の優れた取り組みであり、引き続き注目していきたい。

文：岐阜担当 本田 宗央

取材協力・画像提供・問い合わせ先：飛騨信用組合

